

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和6年12月4日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・ <u>地域連携DMO</u> ・地域DMO	
観光地域づくり法人の名称	公益社団法人 石川県観光連盟	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	石川県全域	
所在地	石川県金沢市	
設立時期	平成元年6月14日	
事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年間	
職員数	36人	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 庄田 正一 （出身組織名） （株）金沢ニューグランドホテル	金沢市の（株）金沢ニューグランドホテル代表取締役社長。平成27年6月に石川県観光連盟の副理事長に就任。金沢ホテル懇話会会長として、広域交通網を活用した旅行商品の造成や欧米等からの海外誘客に取り組むとともに、（一社）金沢市観光協会理事をはじめ、日本ホテル協会、金沢商工会議所、北陸経済連合会などの要職を歴任し、県の観光振興のけん引役として活躍。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 益田 徳章「専従」 （出身組織名） —	令和6年8月から、観光地域マネージャーとして就任。事業全般の指揮・統括するとともに、チーフ・マーケティング・オフィサーとしてデータ分析に基づいた観光地域づくりマーケティングの推進や観光庁・文化庁等の補助事業の活用、観光事業者・団体への支援を行う。
財務責任者（CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 木村 孔明 （出身組織名） 石川県	県職員として、企画調整業務や予算業務を経験した後、令和5年4月に石川県観光連盟の予算・財務を担当。令和6年4月に、総務部副部長に就任。
プロモーションの責任者（専門人材）	（氏名） 山崎 正力「専従」 （出身組織名） 西日本旅客鉄道（株）	西日本旅客鉄道（株）金沢支社在籍時は、長年にわたり広報を担当。その後、令和6年7月に石川県観光連盟のプロモーション事業部長に就任。

旅行商品企画・造成部門の責任者 (専門人材)	(氏名) 大西 洋彰 (出身組織名) 石川県	西日本旅客鉄道(株)ならびに(株)日本旅行にて団体旅行営業や旅行商品の仕入、造成等に従事。 平成21年に石川県庁に入庁し、中国・欧米からのインバウンド誘客や三大都市圏からの国内誘客、新たな観光コンテンツの造成等に従事。令和6年4月に石川県観光連盟のコンテンツ造成事業部長に就任。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	・石川県文化観光スポーツ部(文化観光等施策の推進、財政支援、人的支援等) ・ “ 企画振興部(地域づくり、新幹線・空港利活用、二次交通対策) ・ “ 健康福祉部(施設衛生管理) ・ “ 商工労働部(クルーズ船誘致、伝統工芸利活用、人材確保) ・ “ 農林水産部(里山振興、特産品開発・PR、森林保全・利活用) ・ “ 土木部(兼六園管理、道路標識・サイクリングルート等整備、景観対策) ・ “ 教育委員会(文化観光) ・石川県内各市町観光担当部局(観光資源の掘り起こし等)	
連携する事業者名及び役割	【観光事業者・関係団体】(観光資源の掘り起こしと磨き上げ、PR等) ・県内市町観光協会・物産協会、県内各温泉旅館協同組合、加賀地域連携推進会議(オール加賀会議)、金沢ホテル懇話会、(一社)能登半島広域観光協会、石川県旅館ホテル生活衛生同業組合、(一社)日本旅行業協会(JATA)中部支部石川地区、(一社)全国旅行業協会(ANTA)石川県支部、(一財)石川県芸術文化協会、(一財)石川県美術文化協会、ほっと石川観光ボランティアガイド連絡協議会、(一社)石川県物産協会、加賀温泉郷協議会、等 【交通事業者・関係団体】(県内への送客、観光列車運行、二次交通の充実等) ・日本航空(株)、全日本空輸(株)、西日本旅客鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)、中日本高速道路(株)、IRいしかわ鉄道(株)、のと鉄道(株)、北陸鉄道(株)、(公社)石川県バス協会、(一社)石川県タクシー協会 等	
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	(該当する要件)① (概要) ・石川県観光連盟は公益社団法人であり、法人としての重要な事案については「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に基づく、総会(年1回)及び理事会(年3回程度)において意思決定を行っている。 ・会員には、県や市町、観光団体、民間事業者等地域の多様な関係者を有し、さらに、能登、金沢・白山、加賀の地域ごとに地域委員会(年1回)を設けて、地域の意見を集約するとともに、事業推進委員会(年1回)を設けて、行政や観光関連団体等、業界の意見を集約している。 ・これらの委員会での意見を運営企画委員会(年1回)で集約し、それを踏まえ、理事会や総会において、法人としての意志決定を行っており、地域、業界の意見が本連盟の意思決定に関わる仕組みが機能している。 事業推進委員会…年1回開催。業界の意見を集約する機関 地域委員会 …年1回開催。地域(能登、金沢・白山、加賀)ごとに意見を集約する機関 運営企画委員会…年1回開催。事業推進委員会及び地域委員会の意見を集約する機関	

地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	一人ひとりが「おもてなし」の心を持ち、本県が「おもてなし」の心に満ち溢れた魅力の高い観光地となるよう、平成22年度から地域住民向けに県内各地の公民館等で「おもてなし」について考えるきっかけづくりとして県と連携し、「おもてなし講座」(参加無料)を開催している。
法人のこれまでの活動実績	【活動の概要】 ＜観光振興事業＞ ・ ホームページ「ほっと石川旅ねっと」のリニューアル 北陸新幹線県内全線開業に向けて本県の観光情報の発信強化 ・ いしかわ文化観光コンテンツ造成支援事業 いしかわ文化観光推進ファンド(100億円)の運用益を活用し、文化の担い手と観光事業者が連携した取組に対して、複数年度にわたる伴走型支援を実施 ・ いしかわ旅行商品プロモーション会議の開催 市町や観光団体が発掘・磨き上げた観光素材を大手旅行会社に提案 ・ 個人旅行者向け旅行商品の販売強化 大手旅行商品販売サイトでの販促ノウハウを学ぶ研修会などの実施 ・ 加賀・能登・金沢各地の観光魅力の向上 地域ならではの祭り・食・体験イベントの開催など ・ 観光案内所の運営 石川県金沢駅観光案内所、金沢中央観光案内所など ・ 観光石川の次代を担う人材の育成 文化観光等を学ぶ「いしかわ観光創造塾」の開講 ・ 観光土産品の開発や品質向上 石川県優良観光土産品コンクールの実施 ＜観光キャンペーン事業＞ ・ デジタルマーケティングを活用した誘客促進 人流や SNS などのデータ分析によるデジタルマーケティングを活用し、ターゲットに応じた効果的なメディア媒体による情報発信 ・ 観光 DX を活用したアンケートの実施 県内の観光地や宿泊施設等に、観光客を対象とした QR コードによるアンケートを設置し、観光客の属性・消費額・満足度・求めるものなどを把握するとともに、県と連携し、集計結果をオープンデータ化した。 ・ 本県ゆかりの企業や映画等との連携による PR 本県が舞台となった映画、アニメとの連携や本県ゆかりの著名人や企業等と連携した誘客促進 ・ JRと北陸三県連携による通年誘客キャンペーンの展開 「日本の美は、北陸にあり。」キャンペーン(4月～11月)、「ジャパニーズビューティ北陸キャンペーン」(12月～3月)の展開 ・ お客様の声を活かしたおもてなし向上事業 来県されたお客様のご意見をアンケートによりお聞きし、業界全体で共有 ＜海外誘客促進事業＞ ・ 外国人旅行者のニーズに対応した観光素材の磨き上げ 新たなニーズに対応した観光素材の磨き上げや流通環境整備の支援 ・ メディアと連携した魅力発信 海外メディア等の県内視察に対する滞在費等の一部を助成

【定量的な評価】

	R2	R3	R4	R5
決算額(千円)	370,305	428,735	545,396	532,781
会員数(団体)	188	182	183	185

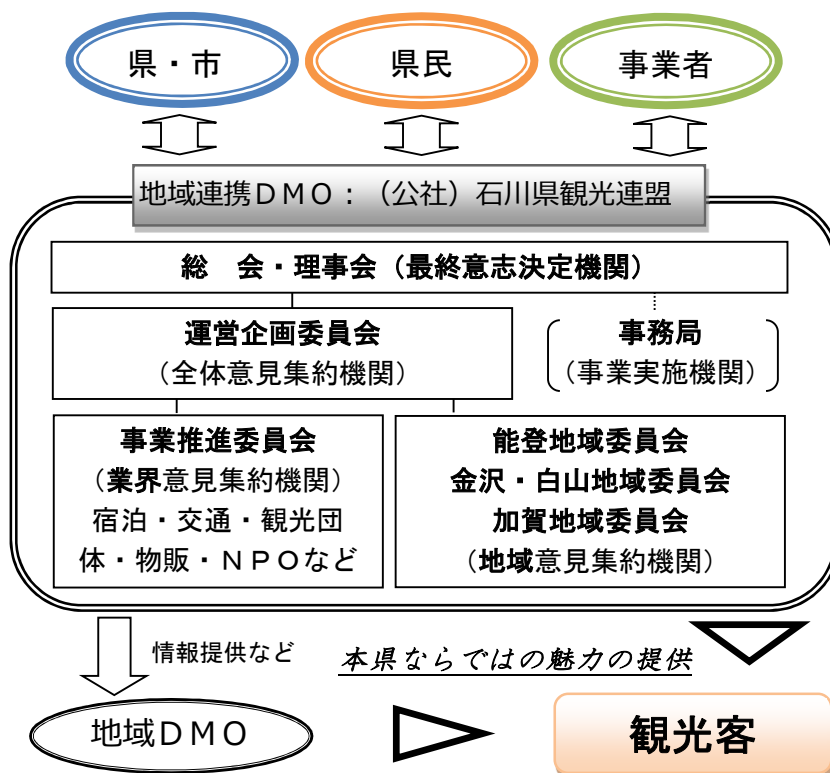
実施体制

※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

【実施体制の概要】

県や市町、観光団体、民間事業者等地域の多様な関係者を会員とした（公社）石川県観光連盟が中心となり、関係者の意見を集約・反映させながら、官民一体となって石川県の観光振興に取り組む。

【実施体制図】



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

11市8町からなる計19市町
県庁所在地：金沢市



【区域設定の考え方】

石川県は大きく分けて、能登・金沢・白山・加賀の4地域に分類され、各地域がそれぞれ異なった観光資源を有しており、これらを有機的につなげてPRすることにより、魅力的な観光地として発信できるとの考えから、本県全体を対象区域とした。

【観光客の実態等】

令和5年の石川県全体の観光入り込み客数については、観光需要喚起策である全国旅行支援に加え、5月8日には新型コロナウイルスが「第5類感染症」となったことから、観光需要の回復が見られ、2,153万8千人、前年比で18.0%の増となり、コロナ前の令和元年比では86.5%まで回復した。

また、発地別では、県内からが、前年比3.6%の減、県外からは、前年比37.1%の増となった。

地域別の観光入り込み客数については、金沢地域で前年比22.4%の増、加賀地域で前年比13.6%の増、白山地域で前年比5.2%の増、能登地域で前年比15.7%の増となった。

また、外国人の宿泊者数については、新型コロナウイルスの水際対策が令和4年10月に緩和され入国制限がなくなったことから、77万4千人泊と、コロナ前の令和元年を超え、過去最高となった。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

<能登地域>

先進国で初めて世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」に代表される豊かな自然はもとより、和倉温泉や輪島温泉郷、食材から食器まで能登産にこだわったご当地グルメ「能登丼」に加え、輪島塗等の伝統工芸、ユネスコの無形文化遺産である「奥能登のあえのこと」、「青柏祭の曳山行事」、「能登のアマメハギ」や日本遺産の「キリコ祭り」に代表される祭り等、伝統文化が色濃く残り、日本の原風景とも言える地域である。

令和 6 年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震により、能登の観光資源は甚大な被害を受けた。石川県では、令和 6 年 6 月に「石川県創造的復興プラン」を策定し、一日も早い能登半島地震からの創造的復興を目指している。

<金沢地域>

日本三名園の一つである「兼六園」や加賀百万石文化の象徴である「金沢城公園」をはじめ、その周辺に広がる武家屋敷跡、茶屋街、寺院群等の歴史的な町並み、本県の食文化の代表格である「加賀料理」など、藩政期から受け継がれる歴史や文化が数多く残る一方で、現代アートの美術館である「金沢 21 世紀美術館」やおもてなしの心を表した「金沢駅もてなしドーム」等、進取の気性に富んだ施設もあり、伝統と新しさが共存した魅力的な地域となっている。

<白山地域>

日本三名山の一つである霊峰「白山」を中心として豊かな自然が特徴の地域であり、また、全国三千余社の白山神社の総本宮である「白山比咩神社」、大自然の景観が楽しめる「白山白川郷ホワイトロード」や白山温泉郷、山の幸をふんだんに用いたご当地グルメ「白山百膳」等、白山の恵みがもたらす様々な魅力を感じられる地域となっている。さらには、令和 5 年 5 月に白山手取川ジオパークがユネスコ世界ジオパークに認定され、世界に発信される魅力が増している。

<加賀地域>

日本有数の温泉が集積した加賀温泉郷、溪谷美が堪能できる「鶴仙溪」や県内屈指の紅葉の名所である「那谷寺」、「九谷焼」や「山中漆器」に代表される伝統工芸、さらには日本遺産に認定された「北前船寄港地・船主集落」や「石の文化」、建機メーカー大手の(株)小松製作所やバス製造大手のジェイ・バス(株)等のものづくり企業の集積を活かした産業観光等、多様な観光資源を有する地域となっている。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】(R5.10 時点)

令和 6 年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震以前は、ホテル 150 軒・収容人員 30,920 人、旅館 216 軒・収容人員 24,847 人ほか民宿等をあわせ県内では宿泊施設 946 軒・収容人員 68,842 人を有していた。

地域別に見ると、能登地域では 334 軒・収容人員 17,223 人、金沢地域では 422 軒・収容人員 31,041 人、白山地域では 59 軒・収容人員 2,487 人、加賀地域では 131 軒・収容人員 18,091 人となっており、県内各地域で一定の施設数及び収容人員を確保していた。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

(1) 陸路

・鉄路については、平成 27 年 3 月の北陸新幹線金沢開業、さらに令和 6 年 3 月に、敦賀まで開業したことにより、南加賀地域と首都圏が新幹線でつながるとともに、北陸三県が 1 時間圏内で結ばれ、利便性が大幅に向上している。また、道路については、新幹線開業に合わせて開通した能登地域と三大都市圏を結ぶ「能越自動車道七尾氷見道路」、県内を横断する北陸自動車道等の高規格幹線道路が充実していることに加え、平成 27 年度より料金が半額となった本県と岐阜県を結ぶ山岳観光道路である「白山白川郷ホワイトロード」も整備されている。

・域内交通については、鉄路については、JR(北陸本線・七尾線)、IRいしかわ鉄道、のと鉄道、北陸鉄道の各鉄道網が整備されている。道路については、平成 25 年 3 月末に無料化された金沢と能登を結ぶ「のと里山海道」等、南北に長い県土の一体化(時間距離短縮)を図る道路網が充実している。

令和 6 年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震により、能登半島の沿岸部を結ぶ国道 249 号や、金沢と能登地域を結ぶ大動脈である「のと里山街道」において、道路の亀裂や崩落など甚大な被害が発生しており、復旧を行っている。

(2) 空路

・小松空港については、国土交通省が認定する「訪日誘客支援空港」の一つに位置づけられており、国内定期路線4路線（羽田、札幌、福岡、那覇）に加え、国際定期路線が3路線（台北、上海、ソウル）就航している。また、のと里山空港については、羽田便に加え、これまで台北からのチャーター便が運航されており、国内外から幅広く集客できる環境が整備されている。

(3) 海路

・金沢港は、国土交通省が指定する「日本海側拠点港（外航クルーズ）」の一つに位置づけられており、令和2年4月には、金沢港の新たな賑わいの拠点として「金沢港クルーズターミナル」がオープンした。

【外国人観光客への対応】

令和4年10月の新型コロナウイルスの水際対策の大幅緩和以降、インバウンドは欧米豪を中心に順調に回復している。今後、大阪・関西万博などの開催も見据え、大手旅行会社と連携し、高付加価値な着地型旅行商品の造成など、特別感のある体験コンテンツの造成を行う。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
石川県内の観光消費額	KGIの把握、観光施策の企画・立案・効果検証の基礎資料とするため	石川県が公表する「統計からみた石川の観光」の中の消費分野別観光消費額（推計）を活用
石川県内の延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握し、観光施策の企画・立案・効果検証の基礎資料とするため	石川県が公表する「統計からみた石川の観光」の中の、日帰り・宿泊目的別観光入込客数（推計）のうち宿泊目的の観光入込客数（推計）を活用
石川県内の来訪者満足度	観光客の満足度、改善すべき点などを把握し、観光施策の企画・立案・効果検証の基礎資料とするため	県内の約600カ所に設置したQRコードを活用したアンケートにより収集 ※R5年度までは同様のアンケートはがき等により収集
石川県内のリピーター率	リピーターの動向を把握し、観光施策の企画・立案・効果検証の基礎資料とするため	石川県が公表する「統計からみた石川の観光」の中の、観光動態調査結果を活用
石川県内の観光入込客数	KPIの把握、観光施策の企画・立案・効果検証の基礎資料とするため	石川県が公表する「統計からみた石川の観光」の中の、発地別観光入込客数（推計）を活用
石川県内の観光消費単価	KPIの把握、観光施策の企画・立案・効果検証の基礎資料とするため	石川県が公表する「統計からみた石川の観光」の中の、消費分野別観光消費単価（推計）を活用
石川県内の外国人観光消費額	KPIの把握、観光施策の企画・立案・効果検証の基礎資料とするため	観光庁が公表する「訪日外国人消費動向調査」を活用
石川県内の外国人宿泊者数	KPIの把握、観光施策の企画・立案・効果検証の基礎資料とするため	石川県が公表する「統計からみた石川の観光」の中の、国籍別外国人宿泊者数を活用
石川県内の外国人観光消費単価（1人1泊あたり）	KPIの把握、観光施策の企画・立案・効果検証の基礎資料とするため	観光庁が公表する「訪日外国人消費動向調査」を活用

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

能登地域では、元日の能登半島地震や9月の奥能登豪雨により、奥能登地域を中心に、未だ観光客をお迎えすることができない状況が続いている。石川県観光連盟として、地震の被害が少なく従来どおり観光できる施設や営業を再開した施設を応援するために、「今行ける能登」と称して、正確な情報発信に努めているところである。

一方で、県内観光業界においては、北陸新幹線が敦賀まで開業したことにより、南加賀地域と首都圏が新幹線でつながるとともに、北陸三県が1時間圏内で結ばれた。これまでに多くの観光客が本県に訪れ、特に、訪日外国人については、金沢市を中心に、宿泊者数ベースで、7月末時点で昨年1年間を超えるなど国全体を上回る推移で増加している。

このような中、石川県観光連盟では、観光地域づくりの司令塔として体制強化を行っているところであり、行政や観光関連団体等との連携のもと、能登の観光の再建はもとより、北陸新幹線県内全線開業効果の最大化に向けた取り組みを加速していくこととしている。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) ○能登半島地震の発災以降、県内外や世界中からの支援を通じたつながり ○能登半島地震からの創造的復興に向けた若手経営者や多様な主体による今後の地域づくりの議論の場 ○伝統と創造に育まれた質の高い文化の土壌 ○充実した陸・海・空の交流基盤 ・北陸新幹線、小松空港、のと里山空港、金沢港等 ○豊かな観光資源(地域資源) ・日本三名園の一つ「兼六園」、世界農業遺産「能登の里山里海」、日本三名山の一つ霊峰「白山」等 ・ユネスコの無形文化遺産や日本遺産に認定された県内各地の有形無形の文化財や加賀百万石時代から培われた風土(伝統工芸、伝統芸能、食文化など) ・ブランド農林水産物	弱み (Weaknesses) ○能登地域の宿泊施設の観光客受入再開に時間を要する ○冬期の観光客数の落ち込み ○二次交通の不足 ○観光産業における人手不足
外部環境	機会 (Opportunity) ○北陸新幹線敦賀延伸開業 ・南加賀地域と首都圏が新幹線でつながったことにより、首都圏からの観光入込が増加 ・北陸3県が新幹線で1時間圏内 ○北陸新幹線金沢開業10周年、北陸新幹線県内全線開業1周年(R7.3) ○旅行者の観光情報手段や旅行スタイルの変容 ・インターネットやSNSの普及 ○円安を追い風にインバウンドは好調	脅威 (Threat) ○北陸新幹線敦賀延伸開業 ・北陸新幹線敦賀駅での乗り換えの不便さや運賃の上昇等により、関西・中京圏からの観光入込は減少 ○地域間競争の激化 ○人口減に伴う国内旅行者の減少

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入(様式自由)。

(3) ターゲット

○第1ターゲット層

三大都市圏（首都圏・関西圏・中京圏）

○選定の理由

- ・石川県が公開している「統計からみた石川県の観光」によると、三大都市圏（首都圏、関西圏、中京圏）からの観光入込客数の全体に占めるシェアが全体の3割を超えていることから（次いで北陸3県からが約5割）、三大都市圏を重点ターゲットとして設定している。
- ・各種統計データやQRコードアンケートデータ等の分析により、効果的なターゲット層（年代、性別など）に応じた情報発信媒体を選定し各種プロモーションを実施する。

○取組方針

①能登の正確な情報発信及び今後の修学旅行誘致に向けた取り組み

- ・能登地域の観光地や施設等の営業状況やイベント・祭りの開催状況を「今行ける能登」と称して、石川県観光公式ウェブサイト「ほっと石川旅ねっと」で引き続き、発信する。
- ・防災・減災の学びとなるプログラムや、地震で隆起した沿岸部でのプログラムを造成する。

②多彩な文化資源を最大限活用した「文化観光」の推進

- ・本県の文化資源を活用した、高付加価値な文化観光コンテンツ造成の取組を支援することで、本県ならではの文化観光の魅力向上及び誘客拡大に繋げる。

③観光地域マーケティング及び観光DXによる効果的な観光施策の推進

- ・デジタル観光マップを活用した県全体を包括する情報発信・予約・決済機能をシームレスに提供するサイトを構築し、観光客の利便性向上・周遊促進を図る。
- ・人流やSNSなどのデータ分析によるデジタルマーケティングを活用し、ターゲットに応じた効果的なメディア媒体による情報発信を行う。

④北陸新幹線県内全線開業の効果を活かした誘客キャンペーンの実施

- ・JRと北陸三県連携による通年誘客キャンペーン等により、特に、関西・中京圏からの誘客を促進する。

○第2ターゲット層

欧米豪を中心とした高付加価値旅行者

○選定の理由

- ・観光庁の宿泊旅行統計によると、本県における令和6年1月～8月の外国人宿泊者数は、前年同期と比べ倍増している（国全体の伸びは1.3倍）。このうち、特に、長期滞在型の旅行を好む傾向がある、欧米豪の旅行者の宿泊数の伸びが最も大きい状況である。
- ・こうした欧米豪の旅行者は、「日本の歴史・伝統文化体験」に期待していることから、本県が有する歴史や、伝統文化といった多彩な文化資源との親和性が高く誘客が見込める。
- ・さらに、主要目標である観光消費額4,000億円を達成するためには、高付加価値旅行者による旺盛な知的な好奇心を伴う自然体験・文化消費が必要であるため、欧米豪を中心とした高付加価値旅行者をターゲットとした。

○取組方針

- ・外国人の観光消費単価を4万円まで引き上げるため、多彩な文化資源を最大限活用した高付加価値な文化観光コンテンツの造成支援を行い、魅力的な体験コンテンツを県内各地に創出する。
- ・ランドオペレーターや海外メディア等の招聘や県等と連携した海外PRにより、誘客を図る。

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	ほっと石川
②コンセプトの考え方	観光の原点は、地域の美しい景観や食、おもてなしの心等、その地域の住民が誇りとする「光（観光資源）」によって観光客をもてなし、感動を与えることにある。 南北に長く日本海に突き出た能登半島を有する本県には、風光明媚な海岸線に加え、日本三名山の一つ霊峰「白山」、「能登の里山里海」に代表される豊かな自然、新鮮な山や海の幸、湯量豊富な温泉、長年にわたって育まれた伝統文化や質の高い芸術に触れられる施設の集積、心温まる人々のおもてなし等、住む人が誇りとする「光」が多くあり、本物や体験、癒しを求める近年の観光客のニーズにも合致しているとともに、本県の優位性・独自性となっている。 コンセプトである「ほっと石川」のキャッチフレーズには、石川の活力と熱い気持ち、温泉の暖かさ、温もりある出会いとおもてなしの心、ほっとするひととき、くつろぎとやすらぎの石川といったメッセージが込められており、県民生活との調和を図りつつ、石川ならではの個性を活かした質の高い観光地づくりを進め、観光客の満足度を高めることにより、石川に愛着を持ち、繰り返し訪れる「石川ファン」の拡大を目指す。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	理事会・各種委員会 観光関係事業者を中心に多くの関係者が会員として参画している法人であるとともに、意思決定機関である理事会（年3回程度）について、行政や観光団体、旅行会社、宿泊、交通、物産等多様な関係者で構成されている。 さらに、観光関係事業者が参画する事業推進委員会（年1回）や県内3地域で行う地域委員会（年1回）等で定期的に情報交換することで、多様な関係者との戦略の共有及びそれらの有機的な連携を図っている。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	県内の観光地や宿泊施設等に、観光客を対象としたQRコードによるアンケートを設置し、観光客の属性・消費額・満足度・求めるものなどを把握するとともに、集計結果を県と連携し、オープンデータ化し、観光関係者が最新の観光データにアクセスできる環境を提供している。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	県内各観光関係団体から観光情報を集約し、総合的な観光情報発信サイト「ほっと石川旅ねっと」において、個人や団体等の旅行者ニーズに合わせてきめ細かく対応しているほか、県内外でのイベント等を活用しながら、一元的にプロモーションを行っている。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. KPI（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

（1）必須KPI

指標項目		2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度	2026 (R8) 年度
●旅行消費額 (億円)	目標	3,103	3,174	3,247	3,322	3,398	3,476
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	1,560	2,187	3,107			
●延べ宿泊者数 (万人)	目標	959	962	966	970	974	977
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	386	662	821			
●来訪者満足度 (%)	目標	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	90.1	91.1	88.1			
●リピーター率 (%)	目標	78.0	78.2	78.4	78.6	78.8	79.0
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	74.7	74.1	78.5			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

2023年(令和5年)9月に石川県が策定した「石川県成長戦略」において、主要目標、KPIを設定(目標値は令和14年度末)しており、石川県と一体となって施策に取り組むことで同目標値を達成する。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

「石川県成長戦略」の主要目標値:観光消費額4,000億円(令和14年度末)を達成するために必要な増加率(一定率)を毎年加算して設定。

●延べ宿泊者数

「石川県成長戦略」の目標値:観光入込客数2,800万人(令和14年度末)に対して、過去実績により宿泊者数は3割程度であることを踏まえ、延べ宿泊者数の目標値を1,000万人(令和14年度末)と設定し、達成するために必要な増加率(一定率)を毎年加算して設定。

●来訪者満足度

県観光連盟が実施するアンケートにより、観光客の満足度に関する5段階評価のうち、上位2つの「満足」及び「やや満足」の合計値を採用。北陸新幹線金沢開業後の2016年が84.6%と高い評価を頂いているため、この水準を毎年、維持することを目指し、目標値を毎年85%と設定。

●リピーター率

石川県が実施する観光動態調査において、石川県への来訪回数が「2回目」以上と回答した観光客の割合を採用。目標値を80%(令和14年度末)とし、毎年一定数(0.2ポイント)加算して設定。

(2) その他の目標

指標項目		2021 (R 3) 年度	2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度	2026 (R 8) 年度
●観光入込客数 (万人)	目標	2,484 (-)	2,484 (-)	2,484 (-)	2,484 (-)	2,484 (-)	2,500 (-)
	実績	1,231 (-)	1,825 (-)	2,154 (-)			
●観光消費単価 (円)	目標	- (-)	- (-)	15,811 (-)	15,938 (-)	16,065 (-)	16,194 (-)
	実績	15,259 (-)	16,612 (-)	18,521 (-)			
●外国人観光消費 額(億円)	目標	- (-)	- (-)	209 (209)	225 (225)	242 (242)	259 (259)
	実績	- (-)	- (-)	259 (259)			
●外国人宿泊者数 (万人)	目標	75 (75)	77 (77)	79 (79)	81 (81)	83 (83)	85 (85)
	実績	0.8 (0.8)	7.5 (7.5)	77 (77)			
●外国人観光消費 単価(1人1泊 あたり)(円)	目標	- (-)	- (-)	25,352 (25,352)	26,645 (26,645)	28,004 (28,004)	29,432 (29,432)
	実績	- (-)	- (-)	34,018 (34,018)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

2023年(令和5年)9月に石川県が策定した「石川県成長戦略」において、主要目標、KPIを設定(目標値は令和14年度末)しており、石川県と一体となって施策に取り組むことで同目標値を達成する。

【設定にあたっての考え方】

●観光入込客数

「石川県成長戦略」の目標値:観光入込客数 2,800 万人(令和14年度末)を達成するために必要な一定数を毎年加算して設定。※令和7年度まではコロナ前の水準を目標

●観光消費単価

「石川県成長戦略」の目標値:観光消費単価 17,000 円(令和14年度末)を達成するために必要な増加率(一定率)を毎年加算して設定。

●外国人観光消費額

「石川県成長戦略」の目標値:外国人観光消費額 400 億円(令和14年度末)を達成するために必要な増加率(一定率)を毎年加算して設定。

●外国人宿泊者数

「石川県成長戦略」の目標値:外国人宿泊者数 100 万人(令和14年度末)を達成するために必要な増加率(一定率)を毎年加算して設定。

●外国人観光消費単価(1人1泊あたり)

「石川県成長戦略」の目標値:外国人観光消費単価 40,000 円(令和14年度末)を達成するために必要な増加率(一定率)を毎年加算して設定。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2021（Ｒ３） 年度	505,459,384 円	特定資産運用益 160,000,000 円 受取会費 7,077,000 円 事業収益 143,584,603 円 受取補助金 162,129,461 円 受取負担金 30,847,100 円 雑収益等 1,821,220 円
2022（Ｒ４） 年度	574,338,046 円	特定資産運用益 159,809,643 円 受取会費 15,896,500 円 事業収益 147,832,125 円 受取補助金 200,368,913 円 受取負担金 47,593,100 円 雑収益等 2,837,765 円
2023（Ｒ５） 年度	607,738,232 円	特定資産運用益 239,056,820 円 受取会費 16,124,000 円 事業収益 146,765,377 円 受取補助金 158,786,387 円 受取負担金 42,624,100 円 受取寄付金 2,553,608 円 雑収益 1,827,940 円
2024（Ｒ６） 年度	597,271,000 円	特定資産運用益 240,000,000 円 受取会費 16,044,000 円 事業収益 152,198,000 円 受取補助金 141,722,000 円 受取負担金 39,528,000 円 雑収益 1,779,000 円
2025（Ｒ７） 年度	597,271,000 円	特定資産運用益 240,000,000 円 受取会費 16,044,000 円 事業収益 152,198,000 円 受取補助金 141,722,000 円 受取負担金 39,528,000 円 雑収益 1,779,000 円
2026（Ｒ８） 年度	597,271,000 円	特定資産運用益 240,000,000 円 受取会費 16,044,000 円 事業収益 152,198,000 円 受取補助金 141,722,000 円 受取負担金 39,528,000 円 雑収益 1,779,000 円

(2) 支出

年(年度)	総支出	内訳(具体的に記入すること)
2021(R3) 年度	428,734,772 円	観光振興事業 209,146,851 円 観光キャンペーン事業 178,481,335 円 海外誘客促進事業 22,742,081 円 収益事業 3,350,449 円 管理費等 15,014,056 円
2022(R4) 年度	545,395,741 円	観光振興事業 247,051,798 円 観光キャンペーン事業 244,545,331 円 海外誘客促進事業 31,915,933 円 収益事業 1,407,339 円 管理費等 20,475,340 円
2023(R5) 年度	532,781,400 円	観光振興事業 258,662,153 円 観光キャンペーン事業 223,915,774 円 海外誘客促進事業 25,472,553 円 収益事業 1,398,429 円 管理費等 23,332,491 円
2024(R6) 年度	681,372,000 円	観光振興事業 295,151,000 円 観光キャンペーン事業 319,299,000 円 海外誘客促進事業 6,425,000 円 収益事業 1,219,000 円 管理費 59,278,000 円
2025(R7) 年度	681,372,000 円	観光振興事業 295,151,000 円 観光キャンペーン事業 319,299,000 円 海外誘客促進事業 6,425,000 円 収益事業 1,219,000 円 管理費 59,278,000 円
2026(R8) 年度	681,372,000 円	観光振興事業 295,151,000 円 観光キャンペーン事業 319,299,000 円 海外誘客促進事業 6,425,000 円 収益事業 1,219,000 円 管理費 59,278,000 円

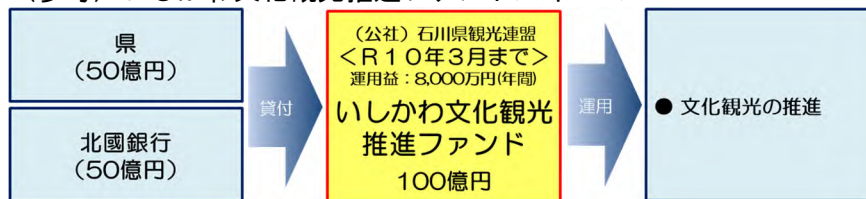
(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・多様な財源確保に向けて、県に対する財政支援を要望。
- ・安定的な財源として、「ほっと石川観光プラン推進ファンド」(平成28年9月創設。令和3年10月に5年間の延長。)及び「いしかわ文化観光推進ファンド」(令和5年4月創設)を当連盟に設置し、その運用益を最大限活用。
- ・自己財源(会費収入)の確保を図るため、マーケティングで得られた情報の会員への提供や着地型旅行商品造成支援等、会員のメリットを強化し、新規会員の獲得に取り組む。
- ・食事クーポンの発行・精算業務による収益事業の多角化に取り組む。

(参考) ほっと石川観光プラン推進ファンドスキーム



(参考) いしかわ文化観光推進ファンドスキーム



8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

石川県は、公益社団法人石川県観光連盟を県施策の実行組織かつ、県全域の地域連携 DMO として、観光地域づくりを推進する司令塔の役割を期待している。県と県観光連盟が車の両輪となり、観光政策をより一層推進していく観点から、DMO とともに申請します。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携 DMO（県単位以外）や地域 DMO と重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携 DMO や地域 DMO との間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

これまででは、県内の DMO が取り組む文化観光コンテンツの造成支援を行っているほか、月に 1 度、主要観光施設・観光スポットの入込客数や主要温泉地・金沢市内ホテルの宿泊者数等のデータや分析結果を提供するなど連携を行ってきた。

令和 6 年 4 月に、当連盟は、県全域の地域連携 DMO として、観光地域づくりを推進する司令塔の役割をこれまで以上に担うべく、組織体制の強化を行った。今後は、県内の DMO とのコミュニケーションの機会を増やしていく予定である。

【区域が重複する背景】

県内の登録 DMO の状況は以下のとおりであり、一部のエリアにおいて、対象区域が重複している。

【地域連携 DMO（登録）】 2 件

- ・（公社）石川県観光連盟：石川県
- ・なお・なかのとDMO：七尾市、中能登町

【地域 DMO（登録）】5 件

- ・（一社）金沢市観光協会：金沢市
- ・（一社）加賀市観光交流機構：加賀市
- ・（一社）こまつ観光物産ネットワーク：小松市
- ・（一社）白山市観光連盟：白山市
- ・（一社）志賀町観光協会：志賀町

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

県内の DMO は、主に観光素材の発掘・磨き上げを担う。当連盟は大都市圏へのプロモーションや文化観光コンテンツの造成支援など、全県単位での実施が効果的な施策を担っている。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

今後、県内の DMO との意見交換を通じて、役割分担を明確にし、効率的、効果的な活動を行っていく。

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	木村 孔明
担当部署名（役職）	総務部副部長
郵便番号	920-8580
所在地	石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地
電話番号（直通）	076(201)8622
F A X 番号	076(201)8280
E - m a i l	kimkomei@pref.ishikawa.lg.jp

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	石川県
担当者氏名	坂室 誠一郎
担当部署名（役職）	石川県文化観光スポーツ部観光戦略課観光産業育成 G L
郵便番号	920-8580
所在地	石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地
電話番号（直通）	076(225)1537
F A X 番号	076(225)1129
E - m a i l	sakamuro@pref.ishikawa.lg.jp

記入日： 令和6年 12月 6日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

石川県全域
【設立時期】 平成元年6月14日
【設立経緯】
区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設
【代表者】 庄田 正一
【マーケティング責任者(CMO)】 益田 徳章
【財務責任者(CFO)】 木村 孔明
【職員数】 36人
【主な収入】
特定資産運用益 239百万円(令和5年度決算)
【総支出】
事業費509百万円、一般管理費23百万円(令和5年度決算)
【連携する主な事業者】
県内の観光協会・物産協会、温泉旅館協同組合、金沢ホテル懇話会、(一財)石川県芸術文化協会、(一財)石川県美術文化協会、全日本空輸(株)、日本航空(株)、西日本旅客鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)、北陸鉄道(株) 等

KPI(実績・目標)

※()内は外国人に関するもの。

項目		2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年	2026 (R8)年
旅行 消費額 (億円)	目標	3,103 ()	3,174 ()	3,247 ()	3,322 ()	3,398 ()	3,476 ()
	実績	1,560 ()	2,187 ()	3,107 ()	—	—	—
延べ 宿泊者数 (万人)	目標	959 ()	962 ()	966 ()	970 ()	974 ()	977 ()
	実績	386 ()	662 ()	821 ()	—	—	—
来訪者 満足度 (%)	目標	85.0 ()	85.0 ()	85.0 ()	85.0 ()	85.0 ()	85.0 ()
	実績	90.1 ()	91.1 ()	88.1 ()	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	78.0 ()	78.2 ()	78.4 ()	78.6 ()	78.8 ()	79.0 ()
	実績	74.7 ()	74.1 ()	78.5 ()	—	—	—

戦略

【主なターゲット】

- ・三大都市圏(首都圏・関西圏・中京圏)
- ・欧米豪を中心とした高付加価値旅行者

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

- ①能登の正確な情報発信
- ②多彩な文化資源を活用した「文化観光」の推進
- ③観光地域マーケティング及び観光DXによる効果的な誘客の推進
- ④北陸新幹線県内全線開業の効果を活かした誘客キャンペーンの実施

【観光地域づくりのコンセプト】
ほっと石川

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ、受入環境整備】

- ・本県の文化資源を活用した、高付加価値な文化観光コンテンツ造成の取組を支援
- ・いしかわ旅行商品プロモーション会議を通じ、観光客の旅行ニーズに対応した体験観光プログラムや周遊型旅行の開発・商品化を促進

【情報発信・プロモーション】

- ・人流やSNSなどのデータ分析によるデジタルマーケティングを活用し、ターゲットに応じた効果的なメディア媒体による情報発信
- ・QRコードによるアンケートによる観光客の属性・消費額・満足度・求めるものなどの集計結果を県と連携してオープンデータ化し、最新の観光データを観光関係者に提供
- ・能登地域の観光地や施設等の営業状況やイベント・祭りの開催状況を「今行ける能登」と称して、ホームページ「ほっと石川旅ねっと」で公開